

荒廃する妙高市杉野沢おおほり湿原

白 崎 仁 ・ 関 省 吾

本年（2008年）8月8日、妙高市杉野沢集落から上の県道（39号）沿いに、「おおほり湿原」の掲示板を見つけたので、その湿原の実態を報告する。苗名滝の上流シブタミ川の谷間にあり、湿原の海拔は1035mである（図1）。車道沿いに4.5台ほどの駐車スペースがあり、そこからスギ林に入る歩道があり、傾斜の緩い歩道には、いくつかの直径1mほどの縦穴と地下を走る横穴を組み合わせた用水路が設置されていて、谷の斜面方向に多量の水が送り出されている（図2）。その用水路沿いを10分ほどさかのぼると、狭い谷間に広がる湿原に到着する。湿原の入り口に、「杉野沢おおほり湿原 杉野沢観光協会」の看板が立っ

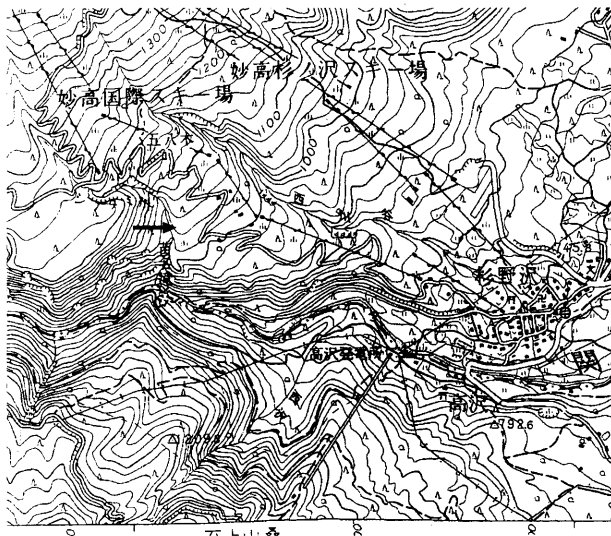


図1. 杉野沢おおほり湿原の位置（矢印）



図2. 湿原の左端の水路

ている（図3）。スギ林に囲まれており、この湿原は民有地と思われる。

杉野沢集落付近にある名勝：苗名滝（860m）を含めて、苗名滝とその上流、おおほり湿原、および笹ヶ峰の地域一帯は、上信越高原国立公園特別地域に含まれている（環境省自然環境局HP）。しかし、杉野沢と妙高市の両観光協会のホームページには、この湿原に関する記事はなく、妙高市観光協会のホームページの「夏用パンフレット 妙高物語」の図中に、「五八木」の文字の下に「ミズバシヨウ」という文字があるだけである。このほかに、Web上の書き込みで、この湿原に関する情報を探ると、遊来訪（<http://www.yuraibo.com/photo.html>）の写真、および「おおほり湿原の水芭蕉」（<http://hisashimo.jugem.cc/?day=20070511>）のページに、ミズバシヨウとリュウキンカの開花時期の写真が掲載されているだけである。

その湿原の左端に、鉄パイプを組み合わせた展望台（高さ2mほどのはしごに、2畳ほどの台）が設置されている（図4）。地上からは、草丈2m以上の密生するヨシのために、スギ林に囲まれた湿原全体は見渡せないが、展望台からは全体が展望できる。湿原全体の広さはよくわからないが、横幅約30m×長さ100mほどあり、湿原を横断する水路より下部のオノエヤナギ林もかつては湿原だったとすると、長さ200m以上の範囲になるだろう。湿原の左端と、湿原を分断して中央部に深い水路が刻まれており、斜面はやや左に傾斜していて、斜面上部の水はほとんどすべて左端の水路に注ぎ込まれる構造になっている（図5、6）。湿原の水は、停滞することなく流れていくので、湿原の水抜きをしていることになる。本来は比較的深い停滞水で優占するミズバシヨウやリュウキンカは、密生するヨシに覆われてしまっている（図7）。ミズバシヨウは湿原の中央部で密生するヨシのために日射が遮られ、その周辺部に多く生育する。ミズバシヨウは湿地の植物だが、水位が低下すれば、ヨシに遷移する。それは、廃田でヨシが優勢するのと同様である。横断する水路の下部は、水抜きの効果がより顕著で、上層のヤナギと下層のヨシが優占していて、ミズバシヨウはほとんど見られない。横断水路の上部には周囲の林からの倒木があり、その倒木は短く切断されて、湿原内に散乱しているので、おそらく管理者が、湿原景観を維持するために切断したのだろう。しかし、倒木は撤去されずに放置されているので、湿原を埋めるのと同じであ



図3.
おおほり湿原入り口に立つ杉野沢観光協会の看板。



図4. 湿原の左端に設置されている展望台。その下流にはヤナギの林が広がる。



図5. 湿原を横断する水路。写真の左側から斜面を流れ下る水はこの水路ですべて集められ、谷の左側の水路に注ぐ

る。横断水路の上部斜面に生育する植物の中には、エゾクロウメモドキ、オオニワトコ、クマヤナギ、ハイヌガヤ、ヤマモミジなどの低木類、オトギリソウ、サラシナショウマ、ダイコンソウ、マムシグサ、ヨモギなどの多年生草本が含まれている。これらはいずれも湿地の植物ではないので、この場所は乾燥化・陸化の方向を示唆している。

この谷間の水がどのように利用されているか、その目的はわからない。水質は鉄分を多く含むので赤褐色に濁り、特有の臭気があって飲用には適さない。この付近の道路沿いに家屋はほとんどなく、農地は杉野沢集落より海拔の低いところにあつて、農業用水のために、水を海拔の高いこの位置から、かなり離れた遠方に導くのは不合理である。その目的はともかく、取水箇所が、この湿原の中央部である必要性は、感じられない。土木の専門家ではないので、工事のしやすさについてはわからないが、杉野沢集落まで水を導くためなら、湿原の末端から用水路を造っても、支障はないだろう。

おおほり湿原は国立公園特別地域内であり、杉野沢観光協会が看板をたて、展望台まで設置して管理している。その観点からすると、仮に民有地としても、この用水路の設置は自然環境への配慮が欠如している。このまま水路を放置すれば、この場所はヨシに圧倒されて、ヤナギやハンノキの林に遷移して、遠からずミズバショウの湿原は荒廃してしまうだろう。

ミズバショウやリュウキンカなどの湿原植物を保全するためには、縦横の用水路を埋め戻し、湿原末端部に数mほどの堰堤を建設して、湿原全体の水位を上げて湿原に進入した樹木を除去するべきである。水を利用するなら、その堰堤の横に用水路を付け替えれば、湿原からの水抜きは止まり、湿原は再生するだろう。観光客でにぎわう池ノ平のイモリが池に比べて、この湿原を訪れる人は少ないだろうが、静かな雰囲気を楽しむハイカーには、憩いの場所として、きっと歓迎されるにちがいない。この地域の関係者の方々の努力に期待したい。

おおほり湿原の植物（湿原を横断する水路の山側斜面のものを記録した。）

アカソ、アカバナ属 (*Epilobium* sp.)、アケボノソウ、アゼスゲ、ウワバミソウ、エゾクロウメモドキ、オオシラヒゲソウ、オオニワトコ、オオバギボウシ、オタカラコウ、オトギリソウ、オニシモツケ、カサスゲ、キツリフネ、クサヨシ、クマイチゴ、クマヤナギ、クリンソウ、ケナシヤブデマリ、コシジシモツケソウ、ゴマナ、サトメシダ、サラシナショウマ、ジャコウソウ、シラネセンキュウ、スギナ、ダイコンソウ、タチアザミ、タニウツギ、タニタデ、タヌキラン、チダケサシ、ツノハシバミ、ツリフネソウ、ドクダミ、ナンブアザミ、ノリウツギ、ハイヌガヤ、ヒメシダ、フキ、マムシグサ、ミズキ、ミズタマソウ、ミズバシ

ヨウ、ミゾシダ、ミゾソバ、ミチノクヨロイグサ、ミヤマ
イボタ、ミヤマカンスゲ、ミヤマトウバナ、ミヤマニガウ
リ、ムカゴイラクサ、ヤマブドウ、ヤマモミジ、ヨシ、ヨ
モギ、リュウキンカ。(五十音順)。



図6. 湿原の水は横断する水路で、このマスに集められ、谷の左側の水路を下る。



図7. ヨシが密生するおおほり湿原の入り口付近。写真の右側に水路が設置されている。

カキに関する雑録と情報提供のお願い

県内でみられるカキの実調べに情報提供をお願いします。カキには様々な形や色があるようです。それぞれの地域に昔から栽培している独特のカキがあり、形、色、味、その他に食べ方にも色々あるようです。カキに関する情報を寄せて頂き、本誌に掲載できればと考えています。写真の提供、大きさ、形、味に加えて食べ方に関するメモを添付して頂ければ幸いです。手元に収集したカキの果実のいくつかを以下の写真で紹介いたします。

(石沢)

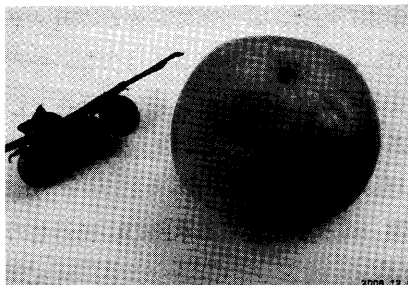


写真1 マメガキ(新潟大学産)と平核無[八珍柿]系(巻柿団地栽培)

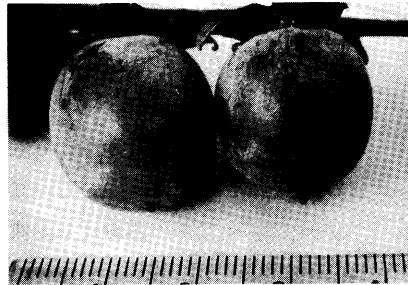


写真2 マメガキ(新潟大学産)

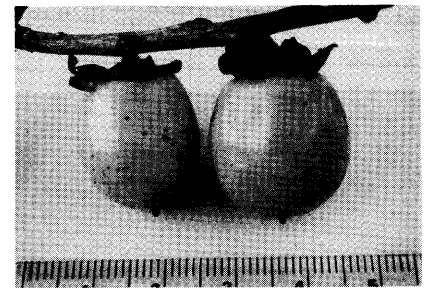


写真3 マメガキ(出雲崎産)

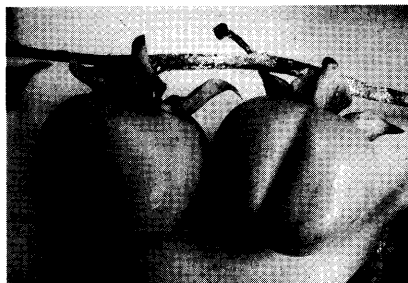


写真4 栗野江柿(佐渡産)

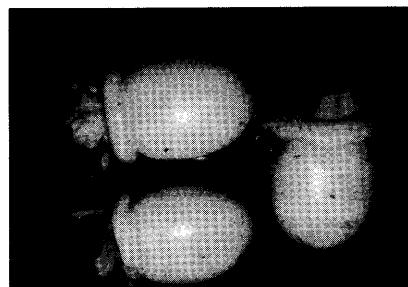


写真5 チンボガキ(津南産)



写真6 クロガキ(長野栄村:栽培)